

第40回学都仙台コンソーシアム定期総会議事録（要旨）

1. 日時

令和8年3月26日（木） 14時00分～14時40分

2. 開催

ZOOMによるオンライン会議

3. 出席者

31 会員機関【（議決権行使書を含む）・出席者の役職名・氏名は＜別紙＞議案資料参照】

石巻専修大学、尚絅学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、放送大学宮城学習センター、宮城学院女子大学、宮城大学、仙台高等専門学校、公益財団法人仙台観光国際協会、一般社団法人東北多文化アカデミー、一般社団法人みやぎ工業会、国立研究開発法人理化学研究所、宮城県、仙台市

（議決権行使書）

聖和学園短期大学、仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学、宮城教育大学、宮城誠真短期大学、仙台赤門短期大学、仙台商工会議所、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 NanoTerasu 総括事務局、

「順不同」（代表者数 31 名／出席者数 25 名）

4. 定足数の確認

小島事務局長から、本会規約により本総会は成立する旨の報告があった。

5. 議長選出

規約第14条第5項及び第12条に基づき、鈴木道子会長を議長に選出した。

続いて、鈴木会長から挨拶があった。

6. 議事録人署名人の氏名

規約第17条第1項に基づき、鈴木議長から石巻専修大学の阿部知顕学長と宮城大学の佐々木啓一学長を議事録署名人に指名した。

7. 議 事

◆審議事項

第1号議案 令和8（2026）年度 事業計画（案）について

会長校事務局及び各事業部会長から、令和8（2026）年度事業計画（案）について、配付資料に基づき事業計画及び予算要求について説明があった。

【事務局】

- ・会議運営は、定期総会を年2回、運営委員会を年4回程度開催する予定。
- ・運営委員会は、議案数や加盟機関の負担を踏まえ、回数・方法を柔軟に運用する方針。
- ・令和8年度事務局予算要求額は、人件費・物価高騰の影響により一部項目は増額したものの、対前年予算比減で申請した。

【単位互換部会】

- ・協定参加23校による単位互換および活性化に向けた環境整備を継続する。
- ・オンライン活用により、近年の事業経費が不要となっているため、予算要求は0円とした。

【サテライトキャンパス部会】

- ・講座仙台学を前期・後期の公開講座に統合したため、ポスター・リーフレットなどの印刷経費を一本化したことで減額大幅な予算減で申請した。

【広報部会】

- ・紙のフリーペーパーを廃止して SNS 広報へ移行する方針。
- ・広報紙作成費は 0 円とし、広報サポートスタッフの謝金単価を年間 1 人 1 万 5,000 円から 5 万円へ引き上げる。

【企画部会】

- ・全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（次年度は 8 月 30 日（土）～31 日（日）広島開催予定）への参加、FD・SD 関連ワークショップの情報収集・情報提供を行う。
- ・イオンモール仙台上杉でのリカレント事業は、施設利用に関する検討を継続する。イオンモール側は事業実施に必要な施設を無償提供し、学都仙台コンソーシアムはカリキュラム運営を担うことをイオンモール側と確認している。リカレント事業は、2027 年 4 月開校を目標としているが、受講者定員、受講料、各大学での手続方法、受講料のほか、運営組織や関係する担当者の雇用など未確定の部分も多い。また、リカレント事業の収支計画に計上された 1,400 万円超の赤字見込みは、コンソーシアム側の負担ではなく、計画上の支出を多めに設定したものであり、収入・支出ともに今後精査していく。費用負担も含め、運営に関する取り決めを、今後イオンモール側と文書での取り交わす予定である。リカレントスクール準備室を設置し、企画部会で協議・確定した情報については、運営委員会や定期総会で諮っていくことになる。

【地域みらい部会】

- ・地域の抱える様々な課題、特に各地で頻発する災害への対策、支援、人材育成の観点から 4 事業を担当大学の独自予算で実施する。
- ・復興大学の事業紹介パネルを作成し、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムで使用するよう予算枠を確保している。

審議の結果、企画部会から提案されたイオンモール上杉における施設利用計画の取り組みについては、企画部会で継続審議を行い、運営委員会および定期総会にあらためて提案することを確認し、その他の事業部会の提案内容は、原案のとおり承認された。

第 2 号議案 令和 8（2026）年度 収支予算（案）について

会長校事務局から、令和 8（2026）年度収支予算（案）について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

第 3 号議案 令和 8（2026）年度 役員の選任（案）について

会長校事務局から、令和 8（2026）年度役員の選任（案）について、配付資料に基づき提案説明がなされ、原案のとおり承認された。

第 4 号議案 令和 8（2026）年度 各事業部会長校（案）について

会長校事務局から、令和 8（2026）年度各事業部会長校（案）について、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

◆報告事項

第 1 号報告 令和 7（2025）年度 各事業部会の活動報告（案）について

会長校事務局及び各事業部会長から、令和 7（2025）年度各事業部会の活動報告（案）について、配付資料に基づき説明があった。

【単位互換部会】

- ・部会は、前期・後期の合計 2 回開催した。
- ・前期履修者の約 70%が単位修得に至り、修得率の低さを懸念事項として共有した。前期・後期とも、履修科目の大半は遠隔授業であった。後期の単位修得状況は集約中である。

【サテライトキャンパス部会】

- ・部会はメール審議により 2 回開催した。
- ・サテライトキャンパス公開講座は、前期 6 コマ、後期 20 コマ、講座仙台学は 1 コマを実施した。
- ・講座仙台学は、各機関の繁忙期との重複、出講数の減少、会場キャンセル料の発生を踏ま

え、令和8年度からサテライトキャンパス公開講座へ統合する。実施時期は前期（6月～7月）または後期（9月～12月）とし、講座仙台学作業グループ会議は終了する。関連業務はサテライトキャンパス部会の運営体制で担う。それに伴い、講座仙台学のポスター・パンフレットは、次年度以降はサテライトキャンパス公開講座との統合広報物となる。これにより年間約24万円の経費削減を見込むが、「講座仙台学」の名称は継続して掲載する。

【広報部会】

- ・部会はメール審議により2回開催した。
- ・ホームページ更新、広報サポートスタッフによる活動、フリーペーパー発行を実施した。フリーペーパー第27号は12月に発行し、第28号は「大学生の住居スタイル」をテーマとして発行・発送済である。

【企画部会】

- ・部会は対面により2回開催した。
- ・FD・SD関連研修の情報提供および全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（神戸大学大学院）へ参加した。

【地域みらい部会】

- ・部会は前期にメール照会、後期に対面による会議の合計2回開催した。
- ・復興人材育成教育、防災教育人材育成、地域復興支援、災害ボランティア支援の4事業を実施した。
- ・東北学院大学および尚絅学院大学では、能登半島地震の被災地支援として学生・教職員によるボランティア活動が行われた。

第2号報告 後援名義等使用の事業報告について

会長校事務局から、後援名義等使用の事業報告について、配付資料に基づき説明があった。

8. 閉 会

小島事務局長から、第40回定期総会の閉会が宣言され、午前10時40分に終了した。

第40回学都仙台コンソーシアム定期総会議事は、以上のとおり相違ありません。

令和8（2026）年 3月 31日

議事録署名人 議長 鈴木 道 子 ⑩

議事録署名人 阿 部 知 顕 ⑩

議事録署名人 佐 々 木 啓 一 ⑩